



「切り絵を贈ろうと思っ
たのはなぜですか」

コロナウイルス感染防止のため、2月27日に国から臨時休校の要請があり、翌日に急ぎよ休校が決まりました。全校児童を体育館に集めて休校の説明をしていたら、涙が出ましたね。あまりに突然のお別れ。子どもたちの気持ちを思うと悲しくて。それから、卒業する6年生に何かできないかと必死になって考えました。そこで思いついたのが、「卒業生に切り絵を渡すこと」です。特技の切り絵を卒業生にプレゼントしたいとずっと思っていました。なかなか時間が取れず実現していませんでした。ところが、休校によって思いがけず時間ができた。早速、6年生26人分の切り絵の作成にとりかかりました。切り絵を贈って、子どもたちの喜ぶ顔が見たい。その一心でした。

武蔵東小、最後で最高の卒業式 ～切り絵に思いを込めて～



武蔵東小学校 校長
(現・国東小学校 校長)
糸永 敏明 さん

3月24日、武蔵東小学校で最後の卒業式が行われました。卒業する6年生26名にとっては、新型コロナウイルスの影響で休校となった2月28日以来の登校日。同級生との久々の再会に、笑顔がはじけました。

この卒業式では、卒業生に特別なプレゼントが用意されていました。それは、糸永敏明校長がこの日のために手作りした切り絵。卒業生一人一人の豊かな表情を表現した切り絵です。切り絵に込めた、糸永校長の思いをお聞きしました。



▲武蔵東小の学校だより

「どのようなお気持ちで切り絵を作成されましたか」

6年生との思い出を振り返りながら作りました。目標とするライバルに最後に越えた子、体の不調を乗り越えてきた子、今も困難に立ち向かっている子、保護者の顔も頭に浮かびました。色々な子がいましたが、とてもかわいい子たちでした。手のかかった子ほどかわいかったです。みんな大きく成長しましたよ。我々の喜びは、子どもたちの成長を見守れること。

切り絵を作りながら、東小最後の1年を校長として過ごした幸せな日々を思い返すと、胸に込み上げてくるものがありました。

「最後の卒業式への思いを聞かせてください」

休校が決定した後で、先生たちに呼びかけました。「まだ卒業式が残っている。最後の卒業式を、最高の卒業式にしよう」と。すると、先生たちから「式はステイジではなくて、フロアでやりましょう」と声が上がったんです。例年、卒業証書は体育館のステイジで渡していましたが、でも、ステイジだと保護者は証書を受け取るわが子の背中しか見えません。フロアであれば、証書をもらうところが見える。また、今回は来賓も在校生もいないので、卒業生を囲むように保護者の席を配置できました。事態を逆手にとって、特別な卒業式を作り出すことができたと思います。



「卒業生へメッセージをお願いします」
ファイナル運動会をはじめ、この1年間よく頑張った。友達思いで、優しく、互いに認め合える、素晴らしい学級でした。みんなには明るい未来が待っています。「将来、こうなりたい」という夢を持つことが大事です。今のよう大変な時、つらい時ほど笑顔を忘れないでほしい。そして、謙虚さと素直さを持ち続けてください。そうすれば、きっと夢は叶います。これからも応援しています。ありがとう。

「式が終わって、保護者から「こんな卒業式は見たことがない。最高でした」と言われたときは本当に嬉しかった。一緒に式をつくり上げた教職員の皆さんに感謝しています。」

親子2代で東小を卒業

～校長先生の思いも、親子で受け取りました～

糸永敏明校長にもらった切り絵を、嬉しそうに持つ山下凛大くん。卒業式に来ていた凛大くんのお父さん、幸紘さんも東小の卒業生です。幸紘さんがちょうど30年前に東小を卒業する時、当時の糸永光校長が卒業生一人一人の似顔絵を描いてくれました。糸永光校長は、糸永敏明校長のお父さんです。偶然にも、校長も卒業生も、親子2代でプレゼントを贈り、贈られることに。切り絵と似顔絵が並ぶ光景に、会場は温かな笑顔に包まれました。

似顔絵は父が額に入れて、大事に保管してくれていました。息子が切り絵をいただいて喜ぶのを見てると、感慨深いです。親子で、大切な思い出ができました

山下 幸紘 さん

切り絵をもらって、嬉しかった。すごく似ていてびっくり。中学校では英語を勉強して、将来はあこがれのロックバンドのようになりたいです

山下 凛大 くん

